

2020年11月16日

「功労賞」受賞者12名を決定

(公社)日本パブリックリレーションズ協会はこのほど、協会設立40周年事業の一環として、12名の「功労賞」受賞者を決定いたしました。

功労賞は、長年にわたって協会活動にご尽力いただいた方を表彰するもので、PR業部会、企業部会、関西部会の3つの部会と協会事務局からの推薦に基づき、理事会で決定したものです。

受賞者の12名の顔ぶれと授賞理由は以下のとおりです。

◎PR業部会推薦(5名)/五十音順

◇井之上 喬氏 (株)井之上パブリックリレーションズ代表取締役会長)

当協会の理事時代はIPRAとの関係強化などを通じ日本のPRのグローバル化に尽力。本年、設立50周年を迎えた井之上パブリックリレーションズを創業、日本のPR業界を長くけん引してきた一人である。多数の著作を通じてPRの理論と実践両面からの業界への貢献は大きい。

◇越智 慎二郎氏 (元・株)電通)

理事2年、常務理事2年を務められPRプランナー資格認定事業を、構想段階から一貫してプロジェクト牽引。見事に事業化をなしえた功績は大きい。プランナー資格取得者はのべ3,000人を数え、今では当協会の公益事業の柱となっている。

◇近藤 義昭氏 (株)内外切抜通信社 代表取締役社長)

毎日新聞社会部記者を経て、メディアクリッピング・モニタリング会社を経営する傍ら、主に教育委員会委員として協会活動に参画。豊富な知見と人脈を生かして講座・セミナーの企画などに長年に渡って多大な貢献をされている。

◇西谷 武夫氏（ウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド日本法人会長）
グローバルPRエージェンシー日本法人のトップとして、長年にわたり日本のPR業界を牽引。パブリック・アフェアーズの重要性を啓発され、2011年には『パブリック・アフェアーズ戦略』を上梓されている。当協会の理事を2年、監事を10年に亘り就任され、その間、国際委員会（現国際・交流委員会）委員として、オランダ大使館訪問をはじめ、協会会員の国際的視野を広げるための多くの活動に直接関与し大きく貢献されている。

◇橋爪 清氏（元・ピーアールコンビナート(株)代表取締役社長）

PR会社経営の傍ら、顕彰委員会活動などで長年に亘って協会事業に尽力されている。現在のパーソン・オブ・ザ・イヤー、シチズン・オブ・ザ・イヤー、PRアワードグランプリの前身である「日本PR大賞」創設時の中心的メンバーとして活躍。その後も長きにわたって当該事業の発展に貢献され、本事業を主力公益事業として根付かせた功績は大きい。

◎企業部会推薦（5名）/五十音順

◇潮見 登氏（元・(株)野村総合研究所、元・東京工業大学大学院 連携教授）

2011年から現在に至るまで、PRプランナー資格検定試験の専門委員として、すべての試験問題作成においてご尽力いただいている。豊富な経験に裏打ちされた幅広い知見と洞察が、試験問題のクオリティの維持、品質向上に大きく寄与することで、PRプランナー資格制度の地位向上と発展に多大な貢献をいただいている。

◇柴山 慎一氏（社会情報大学院大学教授、日本広報学会理事長）

2008年から2年間、PRプランナー資格制度の黎明期を協会理事・資格委員会委員長として、また、試験専門委員や協会内外におけるセミナー講師などの活動を通して資格制度の発展と普及に大きく貢献されており、功績は大きい。現在も、日本広報学会や社会情報大学院大学で精力的に活動されており、PRプランナー資格制度をサポートしていただいている。

◇八木 隆氏（(株)フォース代表取締役社長）

協会理事を2期4年にわたって務められ、その後も、様々な場面で協会活動にご尽力いただいた。特にPRプランナー資格試験制度の創設期、制度の基本的な設計、運営方法、試験会場の提供、さらに自ら試験問題作成に取り組みられ、休日返上の採点などにも取り組みられ、資格制度実施に向けて大きな役割を果たした。また、企業部会においても、長らく指導的立場を務められ、今日の活性化した活動の基礎を築かれ、協会への貢献は大きい。

◇山田 悦朗氏（㈱インターネットイニシアティブ）

理事 2 年、副理事長 4 年、監事 4 年と長期に亘り協会発展に多面的に尽力し、功績を残した。加えて、企業部会長として「企業部会フォーラム」「広報活動研究会」「広報ゼミ」の活動の基礎を築き、その人格に育まれた自由闊達な風土と文化は継承され今も生きている。

◇渡邊 幹夫氏（凸版印刷㈱）

理事、副理事長として長年に亘り協会活動で活躍。特に広報委員会委員長として、協会自体の PR に努めた。また、ガバナンスを強化するために倫理綱領の刷新の必要性を訴え、改定草案を自ら作成。PR 業と企業側との意見を何度もすり合わせ、2016 年通常総会で採択されるまで責任感を持ってご尽力された。

◎関西部会推薦（1 名）

伴 一郎氏（元・㈱伴ピーアール代表取締役社長）

伴氏は、1984 年の関西部会創設時から尽力され、幹事、理事の要職を務め、部会発展に大きく貢献された。本業に加え環境保全など社会活動にも注力。水都大阪の活性化で日本河川協会、日本初の電池推進船就航で国土交通省から表彰され、また琵琶湖ヨシの保護活用で 2001 年 PR アワード受賞するなどその功績は極めて大きい。

※伴一郎氏は 2019 年 9 月逝去されました

◎事務局推薦（1 名）

岩淵昭子氏（東京経営短期大学教授/経営総合学科学科長）

2008 年から 2019 年まで 12 年間にわたって協会監事を務められ、管理会計の専門家として、協会経理事務の合理化と財務健全化に多大な貢献をされている。2012 年の公益認定に際しても専門的知見を遺憾なく発揮されている。